

# 再発見・牛久第二十七話

牛久市文化財保護審議委員

栗原 功

## 牛久と由良家⑧

### 七観音八薬師

(牛久沼を中心としてその周辺に)

—牛久城主由良国繁の

母堂・妙印尼が発願建立—

妙印尼が七観音

八薬師建立の発願をする

—国繁と妙印尼の会話記録—

由良国繁が牛久城に移ってきたのは天正18年(1590年)の盛夏であった。

翌天正19年の秋に、牛久城二の丸の妙印尼の寓居(のちに寺院・得月院になる)で、妙印尼と国繁とが七観音八薬師の発願、建立について交した会話の記録がある。

次にその短い要点のみを記述しておく。

妙印尼は、足高(現つくばみらい市)・牛久両城を枕に討死した岡見家一族とその家臣、北条家との戦いで金山・桐生両城で討死した由良家家

臣、さらに秀吉の小田原城(北条氏直)攻めに加わって討死した由良家家臣、これら戦没勇士たちの後世善所のために、七観音を建立し、八薬師を立て、修羅の苦患を救おうと思いつた。そしてその発願を国繁に『どうであろうか』

と相談したところ、国繁は『尤もなる仰せなり』

と、戦没勇士の菩提を弔うことになった。妙印尼は、各地を巡見の折に、みづから建立寄進の場所を選定した。

### 七観音八薬師建立

—岡見家ゆかりの地である

牛久沼の周辺に建立—

まず普請奉行が割付けられ、足高観音をはじめとして、七観音八薬師が次々と建立、文禄元年(1592年)の初春に至ると、ことごとく成就完成し、4月2日に薬師の八佛、4月18日には観音の開眼供養の儀式が行われた。

七観音および八薬師の名称と、普請奉行は次のとおりである。

### 【七観音】

◇足高観音(現つくばみらい市足高)

奉行横瀬掃部

◇小通観音(現龍ヶ崎市小通幸谷町)

奉行和田民部

◇牛久観音(現牛久市牛久町)

奉行堀中縫殿介

◇羽成観音(現つくば市羽成)

奉行江戸出羽

◇岩崎下の観音(現つくば市下岩崎)

奉行岡野左門

◇若柴観音(現龍ヶ崎市若柴町)

奉行小金井四郎右衛門

### 【八薬師】

◇足高薬師(現つくばみらい市足高)

奉行大館次郎左衛門

◇浜田薬師(現取手市浜田)

奉行市場備中

◇藤代薬師(現取手市藤代)

奉行横瀬主膳

◇若柴薬師(現龍ヶ崎市若柴町)

奉行大沼長門

◇牛久薬師(現牛久市牛久町)

奉行江田兵部

◇田宮薬師(現田宮町。田宮山薬師寺とは異なる)

奉行岡田左馬介

◇谷田部薬師(現つくば市谷田部)

奉行沼尻又五郎

◇岩崎上の薬師(現つくば市上岩崎)

奉行岩松兵部



【羽成観音(上および右写真)】

妙印尼が建立した七観音の一つ。所在地は、つくば市羽成で、羽成山普賢院実城寺に隣接。